

第26期第2回理事会議事録

日 時：10月24日 16時45分—19時45分

場 所：京都府総合見本市会館「パルス・プラザ」

出席者：浅井 竹内 小倉 藤谷 木田 村上 青木
安富 安成 佐藤 中村 武田 佐橋 植村
光田 廣田 石島

オブザーバー （関西支部）村松 由良

議 事

A. 報告事項

1. 第26期第1回常任理事会議事録は一部修正の上承認された。
2. 各委員会報告
「庶務」
 - ・地球惑星科学学会連絡会への参加申し込みを行った。
 - ・1989年度「公益法人の調査」文部省提出
 - ・1990年トヨタ財団研究助成を関西支部 森 広道会員が受けた。（関西支部報告）
 - ・新「日本気象学会の案内」が紹介された。「天気」に掲載予定
 - ・会員データベースの構築に関する計画の報告があった。
「会計」
 - ・8及び9月の収支について資料により報告があった。
 - ・「会費納入方法に関する改善措置」が報告された。
「天気」10月号掲載予定
「天気」
 - ・11、12月号の予定内容及び10月号の内容が資料により紹介された。
 - ・「天気」の編集書記が12月に退職することになり、後任について対策を検討している旨の報告があった。
「気象集誌」
 - ・10月の委員会検討結果の報告があった。主なものは次のとおり
 - ア. 68巻6号の論文数は10編。
 - イ. 近年投稿数減少の傾向がある。その背景は他誌への流出等が考えられる。
 - ウ. 投稿から印刷までの期間の短縮、レフリーから投稿者に対するコメントのあり方、無料扱

いの別刷数の増加の可能性等について検討がされた。

「通信メディア」

- ・8月29日パソコン通信の本格運用が始まって以来の利用状況報告があった。
今後情報交換を一層拡充していく方針である。
「奨励金」
- ・1990年度の受賞者は次のとおり決まった。
横田 寛伸氏 大阪管区気象台
松村 哲氏 徳島地方気象台
「講演企画」
主なものは次のとおり
- ・秋季大会の講演数は240件、平年の状態に比べて多くなっている。
- ・次の大会からOHPを2台用いて講演できるよう努力する。第2種講演（15分）をややきびしく扱う。
- ・予稿集の内容や大会の運営について議論されたが、当面は大きな変更は行わない。
「総合計画」
「科学教育研究会」から気象学会員に対してスーパーコンピュータ提供の申し出があり「天気」で公募した。希望が提供の時間枠を越えたので選考の上、3件を推薦した。
「IAMAP」
- ・1993年横浜の国際会議場で開催が予定されているIAMAPについて会期中の会議スケジュール及び予算計画書など詳細が資料により報告された。正式には1991年にウィーンの総会のIUGG執行委員会で決る。
「理事長」
- ・第26期の評議員について報告があった。（今期の役員一覧表は「天気」12月号に掲載予定）

B. 審議事項

1. 会員の新規加入について
新入会員 個人13名、退会 個人2名が承認された。
2. 奨励金受領者選定規定（細則）の改正
奨励金選考委員長中村理事から第1回常任理事会の審議結果に基づいて規定の改正案が提出され

た。審議の結果、改訂案が承認された。本案は1991年総会に提案される。

3. 1990年度事業報告案・1991年度事業計画案・予算案について第1次案が提出され、特に1991年度の予算案について審議が行われた。中村会計担当理事から、1990年度の予算執行は前年同期に比べて、会員データベース構築の費用および気象研究

ノートの発行回数の減による赤字が見込まれる。

また、今後、予算項目をわかりやすく整理すると説明があった。1991年度の各委員会の予算案について収支が厳しいとの見込が示された。今後、各委員会において案について検討することとした。

4. 第26期選挙管理委員会の意見について意見書に基づいて今後改善案を検討することになった。

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
大気電気学会	1991年1月24日 ～25日		大阪大学工学部 (大阪府吹田市)	
第37回風に関するシンポジウム	1991年1月25日		気象庁	Vol. 37, No. 8
第5回「大学と科学」公開シンポジウム	1991年1月29日 ～30日	同組織委員会	経団連ホール	Vol. 37, No.10
気候変動による環境・社会影響に関する国際会議	1991年1月27日 ～2月1日	UNEP	筑波大学	Vol. 37, No. 11
海洋学会	1991年4月5日 ～9日		東京水産大学	
日本農業気象学会	1991年4月6日 ～9日		大阪府立大学	
第23回海洋流体力学リージュ国際コロキウム	1991年5月6日 ～10日		中国(北京)	
降水洗浄と大気―地表面交換過程に関する国際会議	1991年7月15日 ～19日	カナダ気象海洋学会・アメリカ気象学会	リッチランド	Vol. 37, No. 8
第20回測地学・地球物理学連合総会	1991年8月11日 ～24日	IUGG	ウィーン	Vol. 36, No. 12
『小氷期の気候』国際シンポジウム	1991年9月25日 ～28日	日本地理学会古気候復元研究グループ	八王子(東京都立大学)	Vol. 37, No. 8

編集後記：最近、ある大学で学部2・3年生を対象に気象学の講義をする機会を持ちました。自分の学生の時を振り返ってみると決して大きなことは言えないのですが、いざ教壇にたつて無反応な学生を前にすると、一体彼らは何を考えながら黙々とノートをとっているのか、どれくらい講義の内容を理解してくれているのか、ほとんど疑心暗鬼になります。そんなときは講義が終わると決まって、「最近の学生は・・・」などとつぶやいてしまいます。そうかと思うと、講義の後で質問にきた学生に、「先生の話は早すぎて、ノートをとっている間に次の話に行ってしまう。何とかして下さい。」とかなり興奮気味に叱られると、なるほどと反省すると同時に、1人くらいは一生懸命聴いてくれている学生もいるんだなどとニンマリするわけです。

編集委員と読者の皆様との関係にも似たようなことがあると思います(一部の先生と学生との間に依然残って

いる何らかの上下関係(?)がここには存在しないことはいうまでもありませんが)。編集委員にとって一番不安なときは、会員の皆様が「天気」の記事に対してどのように感じているか、また今後どのような記事を希望されているかが伝わってこないときです。会員の皆様は、それぞれの立場から、様々なご意見をお持ちのことと思います。その中には、狭い知識しか持ち合わせない小生等の思いもよらない貴重なご意見が数多くあるはずで、そのようなご意見をお気軽に編集委員会にお寄せ頂けないでしょうか。「天気」に関することなら、お叱り、御感想、ご希望の企画、何でも結構です。もちろん、「会員の広場」に投稿して頂いてもかまいません。「天気」が一方通行のメディアではなく、会員の皆様と共に創っていく学会誌だということをご理解頂き、「天気」の編集作業に対する会員の皆様の積極的なご参加をお願い致します。(HN)